

1 都心まちづくりを取り巻く現状と課題

札幌の都心まちづくりは、前都心まちづくり計画に基づき、「駅前通・創成川通等の骨格軸」「札幌駅・大通・創世の3つの交流拠点からなる骨格構造」と「道庁周辺地区等のターゲット・エリア」を中心に展開し、約10年の取組の結果、一定の成果と新たなまちづくりの機運が見えつつあります。

一方、札幌や札幌都心を取り巻く社会経済情勢が大きく変化し、これに対応した上位計画の見直し等が進められており、都心まちづくりにおいても、現状を踏まえ、新たな目標を見据えた取組の推進が急務となっています。

こうした中、現在の都心まちづくりを取り巻く現況と課題は、以下の4つの観点から整理されます。

1 都市を取り巻く環境変化への対応

- 人口減少・超高齢社会の現実化
- 生産年齢人口の減少に伴う経済規模縮小の見込み
- 成熟社会を支える都市づくり
- 地球環境問題に対応した低炭素社会の実現の必要性
- 東日本大震災以降の災害に強い都市づくりに対する社会的要請

2 札幌を取り巻く社会情勢の変化への対応

- 激しさを増す都市間競争への対応（札幌の強みを活かした都市戦略構築の必要性）
- 他都市に比肩する広域交通アクセス強化の必要性（新千歳空港等との結びつきの強化）
- 北海道新幹線の新函館北斗開業と平成42年度末予定の北海道新幹線札幌開業
- 冬季オリンピック・パラリンピック招致の動き

3 都心の新たな機運への対応

- 札幌オリンピック（昭和47年）を契機に建設されたビル等の更新時期に合わせたまちづくりの展開
- 大通と駅前通の2つのまちづくり会社によるまちの活性化事業の展開
- 創成東地区のまちづくり機運の高まり

4 都心まちづくりを支える上位計画等との整合

- 札幌市まちづくり戦略ビジョン（平成25年度）
- 第2次札幌市都市計画マスタープラン・札幌市立地適正化計画（平成27年度）

2 まちづくりにおいて重視すべき都心のポテンシャルと役割

(1) 札幌・都心の有するポテンシャル

都市環境

～札幌の立地特性、都市構造

北国固有の豊かな環境

- 北国の変化に富んだ四季が織りなす都市景観
- 大都市でありながら、身近に北海道らしい豊かな自然環境を備えた、都市と自然の共生する都市環境

全国的にみても少ない自然災害

- 札幌は他の主要都市と比べて地震が少ない（過去30年間、震度3以上の地震は約10回。震度5弱以上の地震は、大正12年以降一度もない）
- 今後30年以内に震度6弱以上の地震が起こる確率は1%未満と言われ、関東・東海・中部地方などと比べてはるかに低い
- 全国的に見ても台風の接近回数が少ない
- 首都圏や関西圏から遠く、同時被災リスクが低い

都市活力

～北海道・札幌の経済を支える機能・資源の集積

高次業務機能の集積

- 北海道の玄関口である札幌駅を起点とし、かつ駅前通を基軸とした業務機能、行政機能等の集積
- 道都札幌として、人口、産業、文化、教育機能が集積

北海道観光の拠点

- 空港や鉄道との結節性を活かした、国内外とつながる中核機能の可能性
- ニセコをはじめとする北海道の豊かな自然環境・文化を体感できる観光・レジャーエリアの拠点
- 北海道の魅力、豊かな資源を集約した食文化の充実

生活環境

～北国らしいライフスタイルを享受できるまち

北国・北海道を象徴するライフスタイル

- 世界唯一の積雪寒冷大都市（年間 600 cmの降雪がありながら 100 万人以上の人口を擁する都市は他に見られない）
- 大都市でありながら、身近に豊かな自然環境を有し、自然と共生したライフスタイルを享受できる

都市文化をはぐくむ人・空間

- 多様な文化を受け入れる寛容さと、既存の価値にとらわれず常に新しいコトに挑戦する札幌人氣質
- 多様な文化機能、人々の豊かな時間の過ごし方を支える広場や地下空間等の公共空間の整備により、市民活動の受け皿となる機能・空間が充実

まちづくり

～これまでの都心まちづくりの進展と成果

骨格構造の概成とエリアマネジメントの進展

- 駅前通、創成川通の二つの骨格軸の整備と札幌駅・大通・創世の3つの交流拠点における都市開発の進展による骨格構造の概成
- 道庁東地区等、都市再生プロジェクトの具現化
- 札幌大通まちづくり(株)、札幌駅前通まちづくり(株)の設立によるエリアマネジメント^{※4}の進展

多様なネットワークの形成

- 札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）や大通交流拠点地下広場の整備による、四季を通じて快適な回遊・交流環境の強化
- 地域熱供給網と都市再開発等と連動した自立分散型エネルギー供給施設^{※5}の整備

都市的なインパクトを発揮する新たな機運の顕在化

- 平成 42 年度末予定の北海道新幹線札幌開業に向けた取組
- 冬季オリンピック・パラリンピックの開催に向けた招致活動

※4 エリアマネジメント：地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者などによる主体的な取組。

※5 自立分散型エネルギー供給施設：災害時においても、地域内で熱と電力を供給することが出来る天然ガスコージェネレーション（発電と同時に、その際生じる廃熱も利用する熱電併給システム）と地域熱供給プラントを設置した施設。

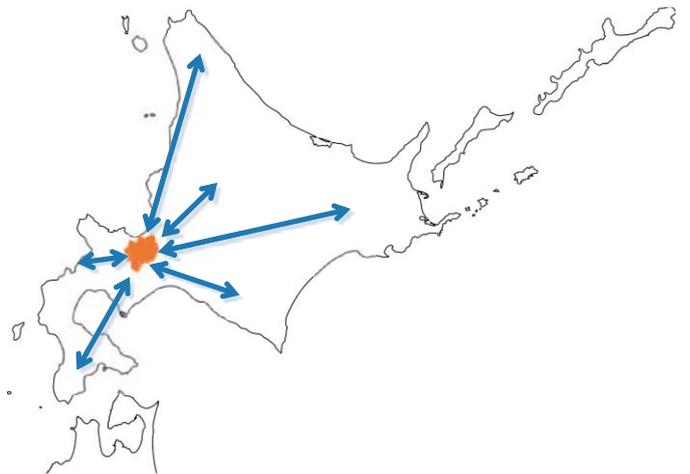
(2) 北海道・札幌をけん引する都心の役割

①活力があふれ、世界を惹きつける役割

- ・ 激しさを増す都市間競争のなかで、国内外から多くのヒト・モノ・投資を呼び込むことで、北海道・札幌の経済発展に寄与するため、札幌の顔である都心が活力にあふれ、世界を惹きつける役割がある。

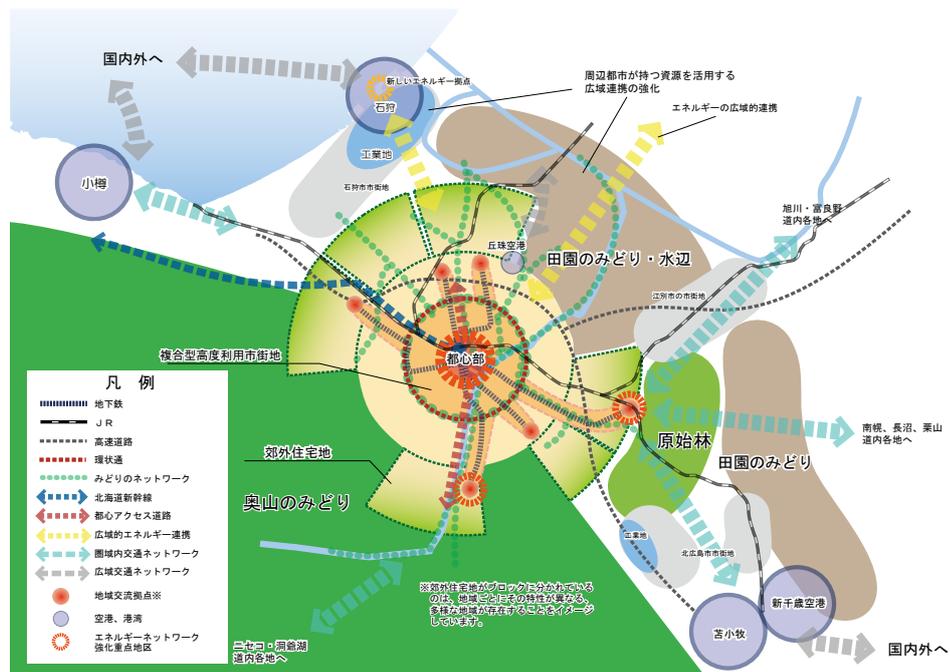
②道内市町村との連携・協調により北海道経済・産業の活性化をけん引する役割

- ・ 札幌圏における広域交通機能等、国内外とのネットワーク性の高さを活かし、道内市町村との連携・協調を促進することで、北海道全体の活性化をけん引する役割がある。



③市内主要拠点との連携から相乗効果を発揮する、札幌の中核としての役割

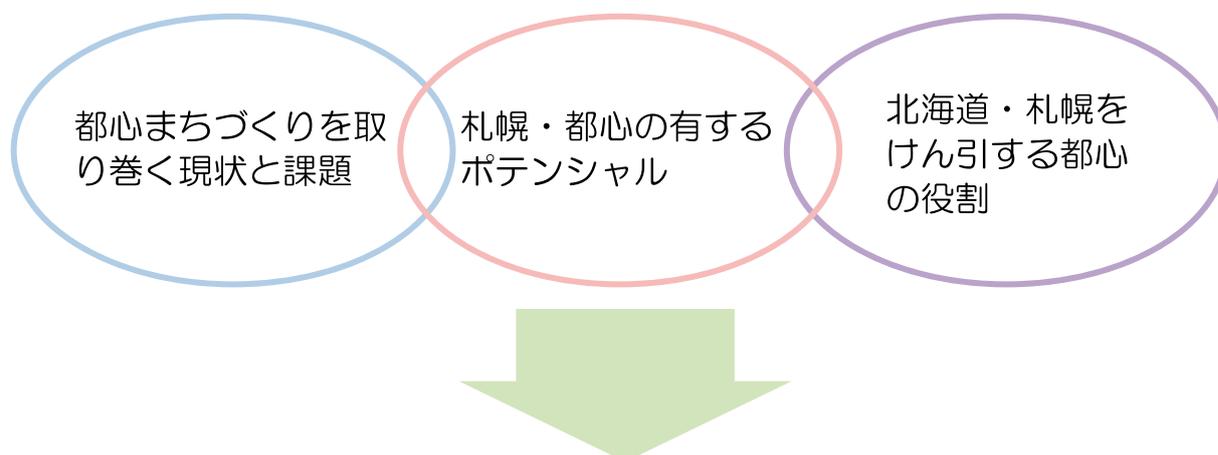
- ・ 市内主要拠点と公共交通・道路ネットワークを介した結びつきを高め、都心の多様かつ高質な都市機能を維持・向上させることで、周辺市街地の生活の質の向上に支援する役割がある。



札幌型の集約連携都市 将来の都市空間図（札幌市まちづくり戦略ビジョンより）

3 都心まちづくり計画の目標

(1) 目標を定める上での視点



視点①

世界が目を向ける成長戦略の発信

- 札幌の立地・都市構造等の優位性を活かした都心強化の推進
- まちづくりを通じて国内外の投資を誘引する魅力・価値の向上

視点②

北海道・札幌の持続可能性を先導する都心の強化

- 人口減少、超高齢社会に対応し、北海道・札幌の経済的持続可能性を支える「道都札幌」の中核としての都心のけん引力・発信力の発揮

視点③

札幌らしいライフスタイル・ワークスタイルの実現

- 身近な自然と高次な都市機能が共存した札幌固有の環境を享受できる豊かな暮らしの場の創造

視点④

まちづくりの実効性を高める連携・協働を提案

- 多様な主体の連携・協働により、都心まちづくりの実行性、持続性を支える戦略的な体制の構築

(2) 都心まちづくりの目標

札幌都心のまちづくりは、都心を取り巻く環境、都心の役割を踏まえ、北海道・札幌をけん引する経済的な成長力を発揮するとともに、札幌の中核として札幌市民の豊かで健康的かつ札幌ならではの魅力と都市文化を享受できる暮らしを実現できる都市づくりを先導していくことが重要となります。

こうした視点を踏まえ、都心まちづくりの目標を次の2つの側面から設定します。

北海道・札幌の中核として世界に比肩する都心強化の側面から

国内外から活力・投資を呼び込む札幌都心ブランドの確立

世界に誇れる環境性や防災性を備え、高次な都市機能が集積する持続可能で魅力のある都心とすることで、札幌都心ブランドを確立し、国内外から投資を呼び込み、北海道・札幌の経済をけん引します。

市民の暮らしの中心となる都心づくりの側面から

魅力的な都心のライフスタイル・ワークスタイルの実現

日常的な市民の訪れや豊かな時間消費を支えるとともに、札幌を象徴する景観を備えた都市空間を創出し、また、働く場としての利便性・快適性の高い環境を備えることで、魅力的な都心のライフスタイル・ワークスタイルを実現します。

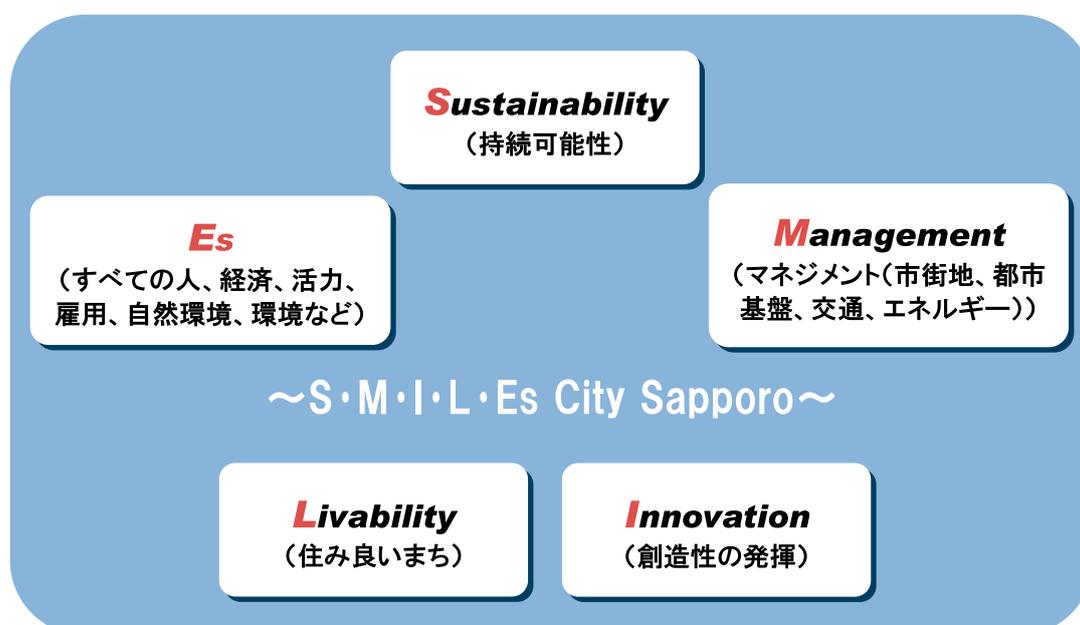
4 まちづくりを通じて目指す都心の姿

(1) 札幌市全体の都市づくりの理念～S・M・I・L・Es～について

まちづくりに係る最上位計画である「札幌市まちづくり戦略ビジョン」では、都市空間創造にあたってのコンセプトとして、「S・L・I・M City Sapporo (スリム シティ サッポロ)」という考え方を掲げています。ここでいう「S・L・I・M」とは「Sustainability (持続可能性)」「Livable (安心・快適で質の高い生活)」「Innovation (創造性の発揮)」「Managing (エネルギーやモビリティなど多様なマネジメント)」という4つの概念から構築されています。

都市計画に係る上位計画である「第2次札幌市都市計画マスタープラン」においては、都市づくりの理念、基本目標として、この「S・L・I・M City Sapporo」の考え方をさらに進め、今後重視すべき視点を加え、新たな理念として「S・M・I・L・Es City Sapporo (スマイルズ シティ サッポロ)」を掲げています。新たに加えられた「Es」とは「Economy (経済)」「Energy (活力)」「Environment (環境)」など、多様な意味合いを包含したものです。

都心においては、これらの理念に基づく施策に相互に取り組み、総合的にまちづくりを進めます。



(S・M・I・L・Es City Sapporo 第2次札幌市都市計画マスタープランの概念を図示)

(2) 都心まちづくりを通じて目指すまちの姿

本計画においては、都心まちづくりの2つの目標に基づく取組を都心の特性、資源を最大限に活用しながら進めることで、都心ならではの「S・M・I・L・Es」を実現することを目指します。「S・M・I・L・Es」を具現化するまちづくりを進めることで、都心が札幌の新たな活力を創造し、経済的な成長を持続的に促進するとともに、札幌特有の資源、環境を活かした世界に誇る環境性を備えたまちづくりを象徴的に実現するものとします。

都心まちづくりを通じて目指すまちの姿として、以下の5つを掲げます。

